

## ソーシャルワーカーのあるべき「資質・行動」について —大阪府下特養施設職員に対するアンケート調査の記述より—

同志社大学社会学研究科 杉田 貴行 (8282)

キーワード：特別養護老人ホーム、ソーシャルワーカー、あるべき資質・行動

### 1. 研究目的

ソーシャルワークは、福祉計画の策定、学校や病院さらには施設内での対人援助サービスの展開や運営管理、地域社会の問題への取り組み、家族の問題への対応、あるいは個人的な社会生活上の困難な状況への関わりなどを含み、その内容は非常に多岐にわたり一言で表現するのは困難である。そこで、福祉実践の担い手としてのソーシャルワーカーのあるべき「資質・行動」を探究する為のアンケート調査を計画し質問紙(5件法質問項目と記述項目)を作成した。調査の実施方法として、大阪府のホームページに掲載されている大阪府下の特別養護老人ホーム(以下特養)全178施設への全数調査としてアンケート調査を計画し実施した。今回の発表は、このアンケート調査の結果について若干の考察を試みた。

### 2. 研究の視点および方法

最初に、現在、大阪府下のA福祉事務所に勤務しているソーシャルワーカー4名に一人ずつ、必要とされるソーシャルワーカーの「資質・行動」イメージを自由に話してもらい、最もそのイメージを表していると考えられるキーワードもあわせて尋ねた。その結果を基に、同義語はまとめて表現し出現頻度も考慮し、28個の「資質・行動」イメージを表す概念を抽出した。その概念を基に、28個の5件法での質問項目を設定し、また、第一の重要項目と第二の重要項目の2つを選択し、その理由を記述する項目も設けた。さらに、選択した2つの重要項目以外に重要事項があれば、その内容を挙げ理由についても記述する項目も設定した。なお、同じ福祉事務所の別のソーシャルワーカー4名に一人ずつ、回答のしにくい箇所の削除や配列の見直しを依頼し、最終的にアンケート調査用紙が完成した。

アンケート調査用紙は大阪府下特養178施設に2枚ずつアンケート調査用紙を郵送し、本年2月の1か月以内の期間設定で調査を実施した。最終的に、60人から回答があり、回収率は16.9%であった。回答者は男性40名(平均37.83才 SD6.11)、女性20名(平均40.95才 SD12.53)名の計62名で、全体の平均年齢は38.87才(SD8.80)であった。

### 3. 倫理的配慮

アンケート調査は無記名で実施し、回答者に調査結果は本研究以外の目的では使用しない事、データは個人が特定されないように厳重に管理する事を文書で説明した。さらにア

ンケート用紙にも同様の説明を記載した。なお、施設に回答者へのアンケート用紙配布は一任し、今回の調査に同意した回答者のみ施設を通さず直接郵送してもらうようにした。

#### 4. 研究結果

5件法(0~4)による28個の質問項目の信頼性係数は0.852であった。各回答者の評定段階の選択個数に関して1要因5水準の分散分析を実施したところ1%水準で有意差が見られ、評定段階五の選択個数が、回答者一人平均14.03個(全28項目)で一番多かった。

第一の重要項目では【思いやり】(11名)、【コミュニケーション技術】(8名)、【連携連絡】(6名)が、第二の重要項目では【連携連絡】(6名)、【専門的知識】(6名)、【コミュニケーション技術】(6名)が上位選択された。また、各質問項目の最重要項としての頻出度や相関関係を参考に回帰分析を実施した。そのうち【コミュニケーション技術】と【専門的知識】、【思いやり】と【愛情】、【技能方法】と【価値目的】、【視点認識】と【機能役割】、【決断力】と【忍耐力】は、それぞれを従属変数、独立変数とした場合に、1%水準で有意な(単)回帰式が得られた。また、最重要項目の第一の評定段階を従属変数、第二の評定段階を独立変数とした場合に、1%水準で有意な(単)回帰式が得られた。

第一の重要項目の回答者は58名、第二は51名であり、他の重要項目に関しては37名が回答し、その理由については28名が記述した。第一もしくは第二で【思いやり】の理由を記述した回答者は9名と1名であり、以下、【コミュニケーション技術】8名と6名、【連携連絡】6名と4名、【専門的知識】3名と6名であった。他の重要項目とその理由の記述内容について、福祉事務所の他のソーシャルワーカー4名とカテゴリー化を試みたところ、【親和性】(5名)、【調整力】(3名)、【継続的支援】(2名)、【業務の割りきり】(2名)が抽出された。

#### 5. 考察

重要項目から、【思いやり】【コミュニケーション技術】【連携連絡】【専門的知識】それぞれが、ソーシャルワーカーのあるべき資質・行動の構成要素としての可能性が高いと思われる。特に、【連携連絡】と【コミュニケーション技術】は第一、第二重要項目の両方で選択された。

また回帰分析より、【コミュニケーション技術】と【専門的知識】、【思いやり】と【愛情】、【技能方法】と【価値目的】、【視点認識】と【機能役割】、【決断力】と【忍耐力】が、それぞれソーシャルワーカーのあるべき「資質・行動」の構成要素であると推測させるものであった。さらに、他の重要項目とその理由の記述を整理した結果、【親和性】、【調整力】、【継続的支援】、【業務の割りきり】がそれぞれ抽出され、これらもソーシャルワーカーの重要な資質・行動の構成要素として考えられるかもしれない。

今回の調査はサンプリングに偏りがあるとはいえ、一定の知見が得られ、本調査を実施する意義が見出せたように思われる。サンプリングの範囲や人数にも留意し調査を継続し、今後も詳細な分析を実施したいと考える。